

第2号様式(第12条関係)

令和6年度第2回大和市街づくり推進会議 会議要旨

1 日時 令和6年11月8日(金) 10時00分から15時40分まで

2 場所 大和市役所 会議室棟 201・202会議室

3 出席者 11名

4 傍聴者 0名

5 報告

- (1) 大和市街づくり推進会議分科会委員指名について
- (2) 第22回大和市街づくり賞の表彰式について

6 議題

- ・第22回大和市街づくり賞 選定

【会議資料】

- ・次第
- ・資料1-1 大和市街づくり推進会議分科会委員指名について
- ・資料1-2 大和市街づくり推進会議規則(改正版)
- ・資料2-1 第22回大和市街づくり賞 現地調査・最終選定スケジュール
- ・資料2-2 第22回大和市街づくり賞 最終選定資料
- ・資料3 第22回大和市街づくり賞表彰式のご案内

■令和6年度 第2回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 令和6年度 第2回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 令和6年11月8日(金) 10時00分から15時40分

[開催場所] 大和市役所 会議室棟 201・202会議室

[出席委員] 11名

[現地出席] 黒石 いずみ／杉崎 和久／ホーテス シュテファン／三浦 由理／河村 奨／小幡 剛志／
大峰 英一／須賀 良二／山田 俊明／星野 澄佳／佐藤 知明

[欠 席] なし

[事務局] 8名(街づくり推進課長、街づくり推進課街づくり推進係5名、街づくり事業係2名)

[担当課] 街づくり施設部 街づくり推進課 TEL.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会

2. 報告

(1) 大和市街づくり推進会議分科会委員指名について

(2) 第22回大和市街づくり賞の表彰式について

3. 議題

・第22回大和市街づくり賞 選定

4. 閉会

II. 内容

1. 開会

2. 報告

(1) 大和市街づくり推進会議分科会委員指名について
事務局より説明

(2) 第22回大和市街づくり賞の表彰式について
事務局より説明

3. 議題

・第22回大和市街づくり賞 選定
事務局より説明後、質疑応答

質疑応答(○…委員 ▼…市)

○:事務局から説明があったが気になる点が2つあるから議論させていただきたい。1つ目は2と7, 20と21は同じ場所だが、推薦者が違うため、別々に点数をつけるようになっている。審査する側は場所を審査するため、同じ場所は同じ点数をつければ良いのではないかと。審査する側は場所を審査するため、分けられない。それとも、申請された文書で判断するのか。私の提案は同じ場所だから分けられないということだ。

2つ目は点数についてである。点数は5点もあるが、既にたくさんある中で上位10位まで決定している。3点と4点の違い、審査員ごとに点数をつけることになるので5点でなくても良いのではないかと。

まず、1つ目について議論したい。

○:応募した個人を表彰するのではなく、推薦された対象を表彰するのか。

○:そのとおりである。

○:それならば、一緒に良いのではないかと。

○:分けなくて良いかと。

▼:承知した。

○:次に2つ目について議論したいがどうか。

○:表彰に値するか値しないか、差をつけるために5点でも良いのではないかと。

○:0~3点の方が評価しやすいのではないかと。

○:審査する委員が2~3人の場合は良いが、今回は委員数が多いこと、各委員の評価も反映されやすいため5点評価で良いのではないかと。

○:やりにくくないか。また、3点の考え方が各委員により異なるから、考え方を合わせる必要があるのではないかと。

○:点数はつけなくてはいけないが、5点3点0点でもよいのではないかと。

○:審査した点数の合計点が高い場合に受賞となるのか。

○:そのとおりである。

○:真剣に考える必要がある。委員により5点が多い場合、0点が多い場合も考えられるので、きちんと検討する必要がある。

- :この審議は個人の受けた印象で良いと以前の会議で議論したのではないか。何件、何人表彰するのか、各委員がつけた点数に差がついた方がやりやすいのではないか。
- :もう一つ大きなポイントとなることは、街づくり賞の意義が市民の主体的な活動に対して表彰する賞という点である。今回の場合、市民が関わってないものがたくさんあり、大和市が管理している事例など、選外になるのではないか。賞の意義がどこにあるのか。
- :今年のテーマは「マチミチ」であり、前回までの街づくり賞受賞事例は行政が管理する施設等も対象としている。
- :市民の街づくりを広げていくという趣旨とは異なっているということか。
- :賞の趣旨と異なるという見方もできるが、行政が管理している施設を模範としながら自分の地域の活動に活かすこともできるという解釈もある。
- ▼:そのとおりである。最終的に啓発に繋がると良いが、市民による活動の事例は賞の趣旨に沿っているということで評価していただくことも可能である。
- :道路などは市民が関与していない。市民が落ち葉の清掃などは行っているが大きな景観をつくっているのは行政であり、多数ある。これらを選ぶのはどうか。
- :良い事例を選ぶという趣旨があるので、市民の主体的に活動していることもポイントにはなるが、そこだけでなく素敵な空間ができていれば良いのではないか。
- :市民が自発的に応募していることが、主体的なことになるので表彰しても良いのではないか。
- :市民が推薦しているから、このプロセス自体が街づくりの啓発につながる。だから、市民が主体的に活動していることがプラスポイントになるが、それだけでなく良い空間を対象としている。
- :選定は1件か。
- :全部に点数をつけて、点数の合計点が上位4件を選定する。
- ▼:そのとおりである。4件程度を選んでいただきたい。
- :5点で問題ないということなので、委員により低い点数が多い場合、高い点数が多い場合があることで全体に影響する可能性もあるかもしれないが今年はこれで良いのではないか。
- :先程の議論の結論は、市民が努力している事例も、市民が良いと推薦した事例も同じように評価するということか。
- :今回は市民が良いと推薦した事例を選ぶ、それは必ずしも市民が主体的に魅力的な空間に関わってなくても市内の良い空間を見つけるというプロセスが参加型になっている。そこで選ばれたものが各地域に波及して欲しいというねらいがあり、かつ市民の方々が主体的になっているというところを高く評価することもある。

【現地調査①】

- ▼事務局より現地調査場所説明後、現地調査へ向かう。

昼食・休憩

【現地調査②】

- ▼事務局より現地調査場所説明後、現地調査に向かう。

○▼午後の現地調査から戻り、動画を視聴。記入された評価シートを回収し事務局にて集計。
結果を基に審議、街づくり賞4件を選定。

4. 閉会

以上